

大阪新聞錦画

第十一号



小阪新聞
錦画

幸之板
幸之板

ラトラ

母はたは足もとあつてやうく
たつめると子史のやうも更なる奥の間へ
傾をみる其夜はくらく寐るる
翌朝見えてはあつては目を凝し
喉の下筋正の結をくみ切れ
呆し迎刃に両者入
醉の採子くみくみ
足張満の病より両方



武島橋樹郡吉田村の百姓七之助が娘おきよは十八才の若さで
ふいと服をきぬを親の正直へんの契り事かたうあつた
を礼さんといふ言ふおきよをうけ問へどあつた知らぬ
男をうけてはい堆あつたやういふこと